大正六年二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百二十七號

婦人衛生雜誌

第三百二十七號目次

謹告

來る三月十日(第二土曜日)午後一時より神田區一ツ橋通共立女子職業學校内に於て本會例會を相開き左の講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引の上御來會被下度候也

小供と老人の骨に就て

醫學士 片山國幸君

大正六年二月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつばら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の為めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其賛成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月　　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續第五條に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會員は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戾せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は每年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中欠員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす但書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の為め園遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件を議定すること●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要及會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くべし●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を事務所に報告して申出べし附後に員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは諸物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚本會々員に報告すべし●第卅二條　會費寄附金等の受領證は交付すべし但地方會員には雜誌に添へて小爲替又は郵券にて納むるものは受領證を送發とし別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金として振替貯金にて口座番號東京一〇六〇〇番本會事務所に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は會費を滯し督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百二十七號
（大正六年二月二十日發行）

講演

子供の體質

醫學博士　瀨川昌世

今回は濱尾副會長の御推薦によりまして此席で皆さんに御話致しまするのは私の甚だ光榮さする所であります。

近頃は書物や雜誌新聞紙等で子供の育方だの病氣に罹つた時の手當などが書かれ、多くの御婦人方家庭の方はこれ等に關し大抵萬事は充分に心得て居られる樣に御見受けするのは甚だ悅ばしい事でありますが、併し時によると「生兵法大疵の因」で餘り御存知過ぎて却て病氣を重くなされたり折角丈夫な子供を餘りおいじりになつて却つて弱くするやうな事も御座います。

元來子供の育方と云ふものは一定した譯ではないのですから、斯うすれば必ず強くなると云ふ樣な規則は無いのですが、唯強い子供の育方と非常に弱い子供の育方とは異つて居りますので、或方は子供を玉の樣に大切にし一から十迄育兒法に從ひ細心の注意を拂つて居るに拘らず度々病氣をし弱い子供が出來る場合もあり、又其れと反對に何でも構はずに育てた方が却て良い子供は打拋つて置けば自然に育つものであると言つて少しも育兒法などには構はずに無暗に亂暴な育方をしても風も引かずお腹も惡くせずに濟むと云ふやうな事もあります、此事實を育兒法の立場から能く考へて見ますと詰り子供の質によつて異るので強い子供なれば大概の無理をしても育ちますが其れに反して弱い子供になると強い子供の樣

にしたのでは育ちませぬで病に罹り易く體も悪くなつて亡ると云ふ不幸を見る事になるのであります。それであるから子供を健康に育て様と思つたならば先づ此子供は何う云ふ體であるか果して強い體か又は弱い體か病氣に罹り易い體であるかそれから病氣に罹り易い體であれば何處が弱いか皮膚が弱いか或は胃が弱いか腸が弱いかと云ふ事をよくお呑込になつてお育てになると云ふ事が必要である、それですから今日は子供の體質に由りて育兒法の異なる點を少し御話しやうと思ひます。

元來體質と云ふのは今御話した通りいろ〱違ひがあります、弱い體質、詰り病氣に罹り易い體を有つて居る者を調べて見ると大抵定まつた型がある、普通之を醫者の方で體質異狀――異つた體質と申します、一體是は性來既に病氣に罹り易い體を有つて居るのであつて其中にも種々の種類があります。

先づ第一に御話するのは皮膚の弱い直ぐに風を引き易い樣な體即ち滲出性體質であります此體質の赤坊は一寸見た所では大變圓々と肥つて居りますが其肥り方が堅肥りでなくてぶく〱した體であります、さうして皮膚の色が非常に白く透明るやうに奇麗な赤ちやんで、何方かと云ふと大變色が白く體も肥過ぎて居る位であります、で能く御存知でせうが頰のあたりに粟粒位のポツ〱が澤山出來頰がザラ〱して赤くなつて居るやうな赤ちやんが世間には澤山ありますが、斯う云ふ樣に發疹が出來て赤く腫れて其所が非常に痒ゆいものですから、乳でも飲ませ樣とする時などに無暗に其頰をお母さんに擦付けたりするのであります、初めは唯粒々が出來て居りましたのが段々と皮が剝げて其所が膿胞になります、これは詰り皮膚が弱いお子さんでありまして健康な子供ならば發疹などは出來ないのであります、又頭髮の中が大變不潔に見えまして幾ら頭を淸潔に洗つても始終毛の中に垢皮が溜つて居る、で垢を去らうとして是を剝離すると皮の下が赤く膨上つて其所から液が分泌して痂皮を結び子供は大變痒がつて手など

で頭を掻きますと其處から黴菌が入ると膿胞になります又肥つて居る手首や頸筋のあたりの筋肉がくびれ其間が爛れる臀部や股間もたゞれます、又夏になつて汗をかきますと直ぐに汗疹が出來ます、それで斯う云ふ樣な體質のお子さんは單に皮膚ばかりでなく、粘膜――卽ち咽喉氣管枝の粘膜も非常に弱いのであります、それですから強いお子さんは少しも障碍にならぬ位の冬の時候でも一寸外へ出ると直ぐ風を引き嚏をするとか又鼻汁を出し鼻加答兒を起し且咽喉をいためて咽喉加答兒になります、斯くして咽喉が惡い位で濟めば宜いが段々奥の方に入つて氣管枝加答兒を起し、尙進んで細い氣管の枝の毛細氣管枝が惡くなり毛細氣管枝加答兒になるので、是は大變子供に取つては重い病氣でありまして此毛細氣管枝加答兒になると直に肺炎になります、斯樣に風を引いたと思ふと直ぐに肺炎になるのは詰り粘膜が弱いからであります、斯く呼吸器の粘膜が弱いばかりでなく胃や腸の粘膜も同じ樣に大變弱いのでありまして夏になると容易にお腹を下します、且一度胃腸が惡くなるとなか〳〵癒り惡く又癒らないばかりでなく重くなります、少し油斷をすると度々腸を惡くして夏は始終お腹が下ると云ふやうな事になります、であるから皮膚の爛れ易い頭や頰に發疹の出來たりする樣なお子さんは餘程面倒を見て育てないと取り返しがつかない事になります。

第二の弱い體質を淋巴腺體質(胸腺淋巴腺體質)と申し是は普通の腺病質の子供であります、御承知の通り淋巴腺と云ふどんな人にでもある、咽喉の際とか(扁桃腺)顎の下、腋の下とか云ふ樣な所にぐり〳〵がある、之を淋巴腺と申しますが、此淋巴腺なるものは普通健康な子供なれば外部から觸つても觸れない程小さい〳〵大きくても豆粒位のものでありますが、淋巴腺體質のお子さんになると恐ろしくぐりぐりが大きく出來て居る、時には大變氣になさいまして瘰癧ではないかとお驚きになる方がありますが決してさうではない愕くには足りません此淋巴腺體質

のお子さんが矢張り非常に弱い體質で淋巴腺が生れつき大きいばかりでなく直に腫れ易いので一寸風を引くと扁桃腺が腫れて扁桃腺炎になる、咽喉が塞がりさうに兩方から大きくなつて其處が赤くなつてゐる、斯う云ふ淋巴腺體質の方は風を引いても容易に癒らない、それから又齒が痛み齲齒があると顎下の淋巴腺がはれる、以上の如く體表の淋巴腺が腫脹し易いのみならず體内例へば腸の壁――腸にも澤山小さい淋巴腺がありましてこれが直ぐに腫れるのであります、普通の子供であると腸が惡くなつた場合でも腸加答兒位で濟むのですが斯う云ふ淋巴腺體質のお子さんであると濾胞性腸炎などを起しまして急に熱が出るとか又痙攣けたりして重くなる、それから又此體質の一番恐るべきところは抵抗力が非常に弱いので、疫痢と云ふ怖ろしい病氣で死亡した子供を解剖して見ると重に淋巴腺體質の子供であります、又子供の脚氣――脚氣に罹つて居る親の乳を呑ませると子供にも親の樣な脚氣が起る――は御承知の通り心臟麻痺を起す非常に危險な病氣でありますが其脚氣になつて死んだ子供を解剖して見ると矢張り淋巴腺の大きい詰り淋巴腺體質の子供であります、そうですから此淋巴腺體質の者は淋巴腺が腫れ易くて直ぐに風を引くし扁桃腺炎を起し病氣が重くなり乳兒脚氣又は疫痢に罹つた場合に心臟麻痺を起して斃れたりするそれから此體質の方は今申し上げた通りに直に扁桃腺が腫れるから此子供が或病氣で醫者に診て貰ふ場合に肥大せる扁桃腺が體質の爲めであるか或は今度の病氣で始めて腫れたのか（急性扁桃腺炎）等一寸醫者に判斷が付かない事があつて其爲に療治をする事が遲れたり又間違つた療治を爲る事も往々あるのでありますから此子供は平生から扁桃腺がはれて居るのだと醫者に注意すると大變醫者の方でも都合のよい場合がある、そう云ふ樣に此體質の者は扁桃腺が腫れ易いばかりでなく直に重い病氣に罹ると心臟麻痺を起すのであるから斯う云ふ體質の方は弱い體だと云ふ考を有つてお子さんを御育てに

なるにも其積りで御育てになつた方が誤りがないのであります。

第三の異つた體質――是は詰り神經質の子供で一般に神經系統が過敏なのであります、斯う云ふ赤ちやんになると物におびえ易くて眠付きがよくない、例へば一寸した事にも驚いて目を覺ますとかびく／＼するとか又よく泣いてぢれて中々默止らない、斯う云ふ子供に限つて非常に綺麗好きで襁褓でも少し汚れて居ると直ぐ泣いてむづかるそして襁褓を取換へると又直に默止つてしまゐます感じの強い赤坊が次第に成長すると所謂癇の高い俗に云ふ蟲の強い子供となり、子供の氣に向かないとヂレて中々手におえなくなる、さうすると親の躾け方が惡いとか餘り甘まへさせる結果であると見做さるゝ場合が多い、勿論躾け方にもよるのであるが十中八九は神經質の素因を持つて生れた子供で尋常普通の育て方躾け方では良い結果を得るのは困難であります、さう云ふ神經質の子供は唯無理に治さうとしても却つて治らない、で益々子供はぢれて餘計泣く始終泣通して親が困ると云ふやうに泣く、泣くから益々神經が昂ぶつて來るのであります、斯樣の場合には醫者に相談する方がよろしいのであります、それから又御注意なさらねばならぬ一事は子供が體の具合の惡い時又はお腹の減つた場合等にも同じやうに絕えず泣いたりぢれたりするから、其區別が中々むづかしいのであります、例へばお乳を哺ふ赤坊は母親の乳が不足する時には大變ぢれるつまり空腹の爲に泣くのであります、それから赤坊は大概八ヶ月位から一年位になると段々柔らかいお乳以外のものを與へる樣になるのですが、神經質のお子さんであるとお乳の外に變つた物を食べさせますと直ぐ吐出して食べない、で食物を替へる時に困る場合が多く、二年近くなつても乳のみを與へるのを見受けますがこれもいろ／＼工夫して乳以外のものを與へる樣にせねばなりませぬ、神經質の子供が一度病氣に罹つた時には普通の丈夫な子供が病氣になつたのと少し樣子が違ひ少し

の熱でもすぐ痙攣けるお腹が惡くて下痢位いたしましてもすぐに痙攣ける、それから又一般に病氣になると熱がすぐに三十九度から四十度位出るのであります。
以上體質異常の子供つまり病氣に罹り易い體質に就て極く大略をお話致しました、これで今日の講演を終ります。

叢談

神樣療法

莊司秋次郎

昔、昔、人間の未だ至て開けない太古草昧の時代に於きましては、東洋と云はず、西洋と云はず、何處の國、何れの人種にありましても、この病氣と云ふものは非常に不思議な事に思はれたので御座います。況や人が死ぬるなどゝ云ふことは、迚も考の及ばぬ變な怪しい事であつたのであります。
今まで手を携へて元氣好く山に獵し、海に漁したものが、猪の牙に懸けられた譯でもないのに、急にお腹や胸に疼痛を覺えて悶え苦しむ。鱶に嚙つかれた譯でもないのに、手足が痛むで動かれなくなる。或は何が何やら分からぬが身體が段々痩衰へて呼吸をしなくなり、動かなくなり、冷たくなつて、呼べど叫べど答がなくなつて仕舞ふ。實に不思議な譯である。と云ふて、それが不思議であると感ずるやうになつたのは、既に大分智慧が働くやうになつた時代のことで、極原始の人類は、それが餘り不思議だとさへも實は思はなかつたのでありませう。が併し一度不思議な事であるわいと考へ始めた以上、人間の本性として、何うかしてその不思議を解明らしたい、如何なる理であらうかと詮索する。これが卽ち研究の初めで、一切の學問は玆から始まつたのであ

ります。
餘の事は姑く措て論ぜず、先づ人間の病氣と云ふ事實に屢々遭遇す、それも決して一樣ではない、四百四病と云ふほどに樣々の病狀が現はれる。特に不思議中にも不思議なるは、從來の人の性質が一變して、これまで至て溫和しかつた人が、非常に亂暴な事をするやうになつたり、今迄元氣の好い極く快濶な人が段々氣拔けのした陰氣な人になつて仕舞たりする。或は生來無口の方の人が急に饒舌な人となり、而かも辻褄の合はぬ途方も無い變な事ばかり口走るやうになつたりすることであります。斯の如き樣々な變化が人に現はれる、これは抑々如何なる理であらうと不審が起るから、それで何とかこれに說明を試みることになります。而してその說明次第で、之に對する處置もつく譯であります。茲は太古も今日も同樣でありますが、唯その說明のつけ方が異なる、從つて之に對する處置も異ると云ふものであります。

それで昔の人は病氣に就いては、先づ何う云ふ說明をしたかと申しますと。極々原始的の人類は別として、左樣な變つた事に就て多少說明を試みようと云ふ程の時代になりますと、大抵神靈の思想が發達して來て居ります。これは宗教思想の發達史或は民族心理學等の方面の研究で、種々面白い發達の階段や經路が明かにされ、各國民、各人種の宗教思想の比較などが行はれて居りますが、兎に角、その時代に行はれる說明の手續は、凡て變つた事は悉く神靈の仕業或はその御思召に由るものとして解釋されたのであります。尤も神靈と申しましても、その神靈には實に又種々樣々の種類や階級がありまして、なかなか四百四病位の數ではない、善い神もあれば惡い靈もあり、八百萬と申上げても未だ足りない。若しそれでも說明に不充分とあれば幾らでも、數限りもなく都合の好い神樣でも佛樣でも乃至惡魔妖怪變化が出て來るのみならず、狐狸等の動物は勿論、禽獸蟲魚草木悉く人間に對して不思議の惡戲をするこ

とになるのであります。
そこで病氣と云ふ不思議な現象が起れば、これは如何なる譯であるかと詮索する、卽ちその病氣の原因を探ることになりますが、それには何と云ふ事なしに直覺的に、これは何かの祟りであると考へる。さて然らばそれは何の祟りであらうかと、經驗のある老人に尋ねるとか、占ふとか、神巫のやうなものに聞く。さうすると、それは、某々神の神慮ぞとか、狐が憑いたのであるとか、蛇が祟つたのであるとか又は死靈が仇をするのであるとか云ふ事になります。
これは所謂診斷でありますが、そこで療法は何うなるかと申せば、先づ二通りになる、卽ちその祟をなして居る神靈に賄賂をして苦しめることを宥してもらふか然らざれば此方から逆襲的に神樣の方を威したくつて退散せしめようとするのであります。
この第一の方は、例へば疫病流行の際に、簷下や道路の辻路の處にゴマメの頭や團子などを竹笹に刺して置く、それは疫病神に賄賂して、人に仇をしないように賴むのであります。第二の方は、例へば狐憑を煙で苦しめて苛責する、往々これが爲にその人を死に至らしむることのあるは屢々耳にする所でありますが、これは其の魔物を脅嚇して退散せしめようとするのであります。以上は只その一例を擧げたのに過ぎませんが、斯樣な方法が幾種類あるか分らぬ、併し何れも右の二種の考の中の何れかに分類することが出來るのであります。
精神病者を捕へて狐憑と稱して松葉で燻したり、或は八ッ手の葉を翳して虎列剌を退けようとするやうな事は、今日では多少知識のあるものは本より致しませんが、僅かにその形式が變ると、相當の敎育ある者も矢張その愚を繰返すのであります。例へば宗敎の形を備へた種々の邪敎が澤山あります。元來宗敎の功德は、迷を轉じて悟を開かしむるに在るのでありませうが、これと反對に、正直に極めて自然に適當の考を持て居る者を、勉めて迷信に陷れる邪敎が澤山流行致して居ります。私は今宗敎の敎義その

ものを批評するのではありませんが、彼の天理教とやら云ふものゝ如きは實に思ひ切つた惡辣な手段を以て愚夫愚婦を惑はして居ります。それは實際私も見聞しましたが、今日では大抵の人は御承知の事と思ひますから、更めて茲には申しません。それから佛教の中では眞言宗及び法華宗の中に行者と稱して加持祈禱を事とし、種々奇怪な治療を爲すものがあります。此等は元來非常に高尙な教義を有する宗教でありますから、充分教育のある、知識の發達した人でも、その宗教に歸依することは出來るのであります。然しそれは無學文盲の者には一寸理解が困難な所から、その大事な教理は少しも用をなさないで、却つてそれに附隨して起つたウラナヒとかマジナヒなどに近いやうな事だけが難有がられて、賣僧どもは、それにつけこんで卑しい錢儲にかゝるのであります。これより生ずる害毒は決して少なくありませんが、併しこれも今日では、殆んど下層の無智の者の間にのみ惡戯されて居るのでありますから、既に小學校の教育を經たものには、その邪惡の影響を及ぼすことは出來まいと信じます。

所が人間と云ふものは、何處までも弱點のつき纒ふものでありまして、近頃になつては又近頃の人間を誑らかすに應はしいやうな、種々の名稱を以て精神療法と云ふものが流行し出しました。

精神療法と申しますと、凡て醫師の行ふ所の療法には、内科でも外科でも、又産婦人科乃至小兒科に於きましても、幾分か患者の精神作用に訴へる所があるものでありますが、殊に神經病及び精神病者の治療になりますと、その病狀に依て、勉めて患者の精神を一方に轉向させ或は興奮を鎭靜せしめ、又はその意志を強めんが爲に、種々の作業を爲さしめ、或は暗示を與へ又時としては催眠術を施す等の事を致します。これは何れも其の患者の疾患に應じて、學理と經驗とに基づいて、その病氣、その場合に最も適當の方法を採るのでありまして、極めて必要の事でありますけれども、近頃俗間に流行する所謂精神

療法なるものは全くこれと趣を異にしたものでありまして、病氣の如何を問はない。問はないのではない、大抵その術者は醫學上の知識が無いものであるから診斷のつく筈がない、若し診斷すれば、それはいゝ加減な出放題であるから、寧ろ病氣は何でも構まはない、何でも治癒ると稱するのであります。而して、その術者と云ふのは大抵賣卜者の毛の生えたやうな者で、通俗の心理學書や醫學書類などを穪讃して、自分の愚說を修飾して、愚人を誑らかすもの、或は居合、接骨などを渡世にしてゐたものゝ少し小賢しく口まめな者、然らざれは何宗何流などゝ系統も所屬もない勝手自個流の行者か、然らざれば多くは行者そのものが、精神異常の病人である。斯樣な種々の惡戯者の中でも、最も流行するのは、この最後の精神異常者たる術者であります。而してそれは何れも千里眼とか透視とか云ふやうな藝當をし、貴方の病は此處にあるとか其處にあるとか言ふて、それから精神統一の法であるとか、催眠術であるとか各々得意の奇術を弄して疾病を治すと云ふのであります。大部分は自分で大袈裟な山師を言ふものでありますが、中には全く無學文盲で「ヒステリー」患者たるに過ぎぬやうな術者もありまして、これには大抵詭辯を弄なる男子の附添がある。斯う云ふのが一番流行するのであります。

斯樣な變なものが何うして流行し出すかと云ふと、先づ術者が嘗て難病に罹り、有らゆる醫者の治療を受けたが寸效なく遂に見放された、そこで自分で工夫を凝らし或は神樣の御示しに依て治病の法を發明し、之に依て自分の難病が全快したのみならず、何人の病でも亦如何なる病氣をも治癒せしむことの出來る妙法を感得したと云ふのが普通で、それから矢張所謂醫者に見放された病人が幾人も全治して、それからそれと傳染するのであります。これが全く無智蒙昧の徒のみならば不思議もないのですが、中には何々學士などゝ云ふ稱號をもつて居るものが、隨喜の涙をこぼしてゐるのがある。さうなると、苟も

大學までも卒業した者が信仰する位であるから、まさか理由のない迷信とばかりは云へまいなどと云ふので多少知識ある階級の間にも流行傳染することゝなるのであります。

これに就て考へて見まするに醫者に見放されたと云ふのにも種々あります。實際今日の醫者及び醫術に依て如何とも致し方の無い病氣は幾らもあります。それが若し實際治癒したと云ふのには、その間に二通りの事が考へられます。第一は醫師が誤診した事。第二は病人が治癒せざるものを治癒せりと誤想する事。これであります。醫師も診斷を誤ることがある、從つて治療宜しきを得ざる事がある。斯樣な場合に、偶然この奇怪なる神樣療法に引掛り、その中に自然治癒を營むことがあり得るわけであります。例へば子宮筋腫と云ふ病氣があります。これは何うかすると性質の惡い癌腫などゝ誤まられるやうな場合があります。尤も暫く經過を見れば誤るやうな事はありませんが、一寸診察した所では疑はしいことがある。斯樣な場合に若しその醫師が、これは或は子宮の癌であるかも知れぬ、さうすれば一寸治癒は六ケしい、手術を要するかも知らぬと言ふならば、患者は以て見放されたとなし、人の噂に釣られて外科的手術の恐れのない便利な神樣療法に賴ることゝなる。然るにこの子宮筋腫と云ふものは、一定の年齡に至ると往々自然に小さくなつて仕舞ふことがあるものであります。丁度それが神樣療治を始めてから小さくなれば、患者はさがのす醫者に見放された子宮癌も神樣療法の御蔭に依て不思議にも治癒つたと云ふて非常に深い迷信の穴に陷つて仕舞ふでありませう。この類の事は幾らもある例であります。

次には實際は少しも其病氣は良くはなつてゐない、只患者が自分で全快した心持になつて喜んでゐるのがあります。例へば肺結核、特に神經病及び或は一定の精神病などに於きましては、怪しげな神樣療法に依て幸にも全快したと稱するものが頗る多い、周圍の人々も往々全快したかの如く思ふてゐる。然る

に精神病學者が正當の檢査法に依て精密に診察をして見ると少しも恢復してゐないのみならず、往々以前よりもその妄想が複雜となり、頑固になつてゐる事を發見するやうな場合が少なくないのであります。精神病者は勿論でありますが、其他の普通の病氣にしましても、本人が、その病氣を自覺してこそ初めて病人ですが、縱令間もなく死亡すべき運命を持つてゐても、本人が自覺せずに平氣で居るならば、矢張これは病人とは云はない、本人は全く健康であると稱するのであります。神樣療法に依て治癒したと云ふ病人の中には、此の種の全快者が頗る多い、醫者が診察しては少しも恢復はしてゐない、却て病勢が增進して來て居る、それでも本人が全快したと感じ又信じて居る分には致し方がない、それで宜いわけであります。

斯くの如き憐れむべき人々の少なからぬ事は實に慨歎すべきことで、その害毒も亦決して尠なくありません。要するにこれは普通の教育が足らない結果である。彼の學士の稱號を有してゐる人、或は博士の學位を有して居る人すらも猶且つ此の如き迷信に陷ることのあるは、精神に異常を來して居る人は論外でありますが、確かに自然科學の知識、殊に生理病理等の知識に乏しい罪であらうと思はれる、その證據には斯樣な愚夫愚婦の仲間入りをし、山師者の前棒などに使はれるのは大抵自然科學に緣の遠い、憐むべき空想家のみである。この點に至つては婦人は男子よりも一層誑らかされ易く、迷信に陷り易い傾があるのでありますから、特に精神を堅固にし、理性を明かにし、意志を强むることに努めて、世の嗤となり、又自ら禍を招くことのないやうに用心しなければなるまいと思ひます。

寒むがり

醫學士　中村幾助

外氣溫が體溫以下になれば、我々は寒いと感ずる。

然るに茲に一つ特に「寒がり」の人と云ふのがあります。卽ち同じやうな食物、同じやうな衣服、同じやうな仕事をして、同じ處に在つて、普通の人は「今日は大分お寒う御座いますな——」位の挨拶で、平氣で居るのに、「まあ、何うも何んと云ふ酷い寒さでせう……」などゝ眞顏に言ふ人があります。その人を見ると、首をすくめ、手足を縮め、脣の色を變へて、實際がた〳〵顫ふて居るのであります。これは何うしたものでありませう。

同一狀況、同一條件の下に於て、一人は平氣で居るのに、他の者は恐ろしい程に寒がる。熱いとか寒いとか云ふのは、その人々の感じを言表す、半ば主觀的の言葉でありますから、實際は何の位熱いのか、寒いのか一寸見當がつきません、檢溫器で體溫を測つて見て、四十度以上ありましても、本人が寒いと云ふて顫ふ時には、矢張寒いと感ずるのでありませうから、左樣な理窟はない、何うしても熱くなればならぬと云ふた所で致し方がありません。斯樣な譯で、同じ强さの刺戟でも、或人は餘り寒いとは感ぜず、又或人は甚しく寒いと感ずるのであります。

そこで所謂「寒がり」の人と云ふのは何う云ふ人かと觀察して見ますると、

第一には心臟の力の弱い人、貧血して居る人、腺病質の人、斯う云ふ種類の人が寒がります。

第二には老人。老人と云ふても必ずしも六十乃至七十以上の人とは限りません、普通は四十歲以上、往往三十五六歲を超えると既に手足の冷えることを訴へるものであります。これもつまり心臟や血管の働が弱つて來た第一の徵候であります

第三には不活潑の人、卽ち餘り仕事をしない人、惡く言へば懶惰者が寒がります。

第四には精神の痴鈍な人、所謂活氣に乏しい、だらしが無いと云はれる性質の人が寒がりであります。

これを一口に申しますならば、新陳代謝機能の不活潑な身體を有つてゐる人、或は新陳代謝機能が衰へ、又は故障のある人が寒がるといふことに歸著致しま

す。

斯樣に觀察して參りますと、寒がりの人には、今日此頃如何なる事を勸めれば宜しいかと云ふことは自ら明かになる譯であります。

先づ以て病氣は治療しなければならぬ、不良の體質は改造することに努めなければならぬ、これは一寸急場の間には合はぬ、少なくとも今年の寒さに負けぬと云ふのには少し手遲れになりましたから、左樣な人は先々氣候の溫い處に避寒するとか、「ストーブ」で適當な氣溫を作つて引籠り療養するとかして、この寒を凌がなければなりますまいが、未だ四十歲や五十歲で手足が冷えて來たと云ふやうな人は、宜しく元氣を振起して若返ることに努むべきであります。卽ち一切老人じみた事を廢して、何事も勉めて若者のやうに、もう一歩退いて精神も仕事も子供のやうに無邪氣に活潑に、遊戲的に愉快に行ふやうに自ら心懸けることが必要であります。

最後に、熱いとか寒いとか云ふ事は、一つは氣の持ちやうに出るものであると云ふことを考へて、少々寒いと思ふても、首をすくめたり、手足を縮めたり、所謂寒がりの姿勢を取ることなく、之に反抗して伸伸した姿勢を保つて、寒さを押返すと云ふ氣構へになれば、普通の健康の人は、我國の冬の寒さ位に負ける筈のものではありません

斯うは申しますものゝ、「雪の降る日は寒くこそあれ」で、零度以下何度と云ふやうになつては、何人と雖も、寒苦を覺えざるを得ませんから、此の場合には可及的防寒法を講ずるのは至當の事であります。

防寒法としては、衣服、殊に毛織物の衣服を重ねて著ること。溫い飮食物、殊に脂肪に富んで居る物を用ゐること。暖かい室內に居ること等は古來何人も實際應用しつゝある所でありますが、玆に一つ疑問となるのは、飮酒と溫浴であります。酒を飮むでも、湯に入つても溫かに感ずることは、確かに溫かに感じます。併し後に至つて非常に體溫を奪はれて反つ

て寒くなると云ふ、これも事實であります。そこで私は自分の經驗から、この二つを適當に應用することを御傳授致し度いと思ふ。それは酒は矢張日本酒を溫めて、僅かに全身に溫感を覺ゆるまで飮むのであります。餘り少々では却て寒さを覺ゆるものであります。と云ふて餘り大量に飮みますと、痲痺して、自覺的には大變溫かく感じますけれども、實際は此時既に早く體溫は降りかけて居るのであります、故に凍死するのは大抵泥醉者であります。斯う云ふ性質のものでありますから、「アルコール」は理論上適當の防寒藥ではありませんが、適當に用ゐるに於ては、少なくとも甚だ快き耐寒劑であります。

次に溫浴も、夜入浴して直ぐ就褥すれば甚だ溫いが、曉方になつて寒いものであります。そこで冬の溫浴は、日中最も溫い時刻にして、浴後に輕易の運動をするか、或は充分溫まつた後に、湯から上ると直ちに冷水を浴びれば、永く溫を保ち、容易に風を引くこともありません。

禿頭病の話

賀川哲夫

禿頭病は後天性脫毛症の內の局處性後天性脫毛症に屬する皮膚病である。後天性脫毛症とは如何なるものであるかと云ふに、毛髮が脫落することは生理的の事であつて、これは速に新生する毛髮で補はれ禿部を生ずることのないのが普通である、併し皮膚に何か病氣がある時は脫落する毛髮の補充が充分に出來ないために脫毛部は其儘に成つて遂に禿部を生ずるのである。

斯の如くして生ずる脫毛の內で、身體の左右に同樣に起る場合と唯一ケ所のみに起るものとの二種類を區別することが出來る。腸窒扶斯、肺炎、產後、產褥熱、猩紅熱、痘瘡等の時には一時的に脫毛してすぐに復生毛するものである、黴毒や癩病の樣な慢性病でも脫毛が起つて久しく治癒しない事が屢々ある。皮膚病の內では有毛部の濕疹、白癬、丹毒等、

神經病では神經の外傷、顔面片側萎縮症、神經病、帶狀疱疹等は脫毛の原因である。

禿頭病とは頭だけに限られて居る脫毛症であるが、其原因としては黴毒、黃癬、毛囊炎、粃糠疹等は判明して居るけれども、此外に不明の原因があつて、それは神經性であると云ひ又は傳染性であると云はれて居る。禿頭病には先づ一ケ所に圓ひ禿を生じて其近所に復圓い禿を生じ、段々と其數が殖えて行つて、頭全體が圓禿になるものと、頭全體が平等に漸漸脫毛して行くものとの二種類がある。俗に云ふ臺灣坊頭と云ふのは前の方に屬する病氣で、圓形禿髮、圓形脫毛症、鬼舐頭、油風などの名稱がある。此禿頭症は起り始まつた時少しも苦痛が無いから自分では氣が附かないで他人から云はれて初めて頭の禿げた事を知つて大に狼狽することが多い、時としては少し痒味を覺えることがある、此禿頭病は何に因て起るかと云ふことは吾々が先第一に興味を感ずる問題であるが、遺憾ながら今日まだ原因は明でない。

頭痛、「ヒステリー」、神經衰弱等の神經病の時に起る故に神經に原因があつて起るものだと云ふ學者があるかと思ふと、學校、兵營、理髮店等が媒介と成つて禿頭病が流行することがあるから、此病氣は傳染病であると云ふ學者がある、京都醫科大學皮膚科教授松浦博士や大阪醫科大學皮膚科教授櫻根博士などの研究された成績では、此病氣は決して傳染するものではないと云ふことである、併し日常の經驗上から見れば傳染することが全く無いとは云はれない、要するに原因は不明であると云はねばならぬ。

禿頭病の內でも右に述べた圓形脫毛症は惡性の方である、これとは違つて初め頭に「ふけ」が澤山出來て、三十歲頃から少し宛頭髮が脫落して來て遂に頭の中央に圓い禿が出來、同時に額が拔け上がつて來て遂には、頭の後方と耳の上の所だけに黑い毛が殘つて額の所と頭の中央とが全く裸に成つて了ふことがある、これを智惠禿と名づける、併し智惠の有る人に限り此の樣に禿げると云ふのではなくて、年が若く

て頭が禿げたと云ふ事に同情して、分に過ぎた美名を附けたのであると思はれる、此禿頭病は婦人には殆ど無くて男子に多いものであつて且つ父子兄弟が皆同じ樣に智惠禿で困ると云ふことがある。其他身體を疲勞させる病氣のために起ることもある。併し主なる原因は「ふけ」が澤山に出來ることであるから、日常これに注意して居れば、此禿頭病を未發に防ぐことが出來る。

次に婦人特有の禿頭病とも云ふべきものを述べやう、これは東京醫科大學皮膚科教授土肥博士が結髮性脫毛と名づけられた病氣で、二十歲前後から頭の中央部の毛髮が稀疏となつて其部の皮膚が輕く腫れて少し痒味を持つて居る、これは髮を結ぶ時に毛髮を強く牽引するがために、毛根が緩んで來て遂に拔けて了ふのである、婦人でも日本髮を結ふ方に殊に多く、束髮ばかり結つて居る方には少い病氣である、今日五十歲位の年輩の方では、此種の禿頭が大變澤山あるのは、若い時分に日本髮ばかり結つて居たためである、此點から云へば束髮は頭髮衞生に適つた結髮法と云はねばならぬ、併し束髮でも、頭の中央の所で圓く毛髮を別けて堅く結んで、前髮を區別する結方があるが、これでは日本髮を結ふのと同じことで、矢張り中央に禿が出來る憂がある、今日では結髮の形式が澤山あつて、未だ將來色々の形式で發明せられる事だらうと思はれるが、頭髮衞生上から云へば毛髮を可成自然の狀態に保つて結髮する形式が最も善い方法であるとせねばならぬ、東京では髮結法研究會や結髮競技などが催されて此方面の研究が盛に行はれ、昨年の婦人小供博覽會では結髮の種類を網羅して其形式を示し、此方面の發達に裨益したことが少くなかつた、併しこれ等の研究は唯如何にせば婦人美を顯揚すべき髮形を爲すことが出來るか、如何にせば格構善き髮形を作ることが出來るかと云ふ所を主眼として居るのであるから、吾々醫師の立場から見れば不合理的と云はねばならぬ點が少くない、嘗て粗惡な白粉を濫用した爲に鉛中毒即ち

白粉焦を起すのを知つて、鉛分を含む白粉は皮膚を美ならしむるものではなくて却てこれを醜惡にするものであると云ふことが廣く知られて來て今日では白粉の選擇には先づ鉛分を含有して居るか否かと云ふ事を第一の條件とする樣に成つた、これは皮膚衞生上の一進歩である、若し鉛分のある白粉を用ふれば、皮膚は却て害を蒙むるものであるが如く、不適當な結髮法を行ふ時は、婦人美の顯發、形態美の調和などは以ての外のことで、遠からず禿頭に成つて了つて取返の附かぬ事が出態するのである、これが吾々が不合理と云ふ點である、斯の如き次第であるから將來結髮法を研究する方は此點に著目し、含鉛白粉を排斥した明を以て非衞生的結髮法を排斥せられ最も衞生的の髮結法を發見し普及せられん事を希望する次第である。

（以下次號）

美人になる運動法

始、終、生

私は近頃の娘さん方の姿勢が立派に爲り、聲の好くなつた事は全く體操と唱歌のお蔭であると思ふて喜んで居りますが、唱歌は御宅に於ても、亦は散歩の際にもよく歌はれるのを聽きますけれども、體操に至つては、學校の體操場以外では殆ど見る事は御座いません。是はつまり體操と云ふものが面白味が無い、又餘り體裁もよろしくないが爲ではあるまいかと想像されるのであります

然るに近頃獨逸のハーデ、カルマイエルと云ふ婦人が著した『ギムナスチックに依る婦人の美及び健康』と云ふ書物を見ました所が、亞米利加のステッピンと云ふ婦人の體操法を基礎としたものでありまするが、誠によくこの缺點を補なふて居るものゝやうに思はれますから大體その方法を御紹介して見たいと思ひます。

緒言

體育は婦人にも亦必要なり

身體を強くし、これを鍛へ、これを靭かにして保つて行くと云ふ事は單に男子の義務たるのみならず婦人も亦この意味に於ては、自分のみならず人間全體に對してその義務を充すべきものであると云ふ事は、今日では一般に認められて居る事實である。婦人は次の世代に對してこれを擔ふて行く上に非常な關係がある事を考へるならば、その健康に就ては男子よりも一層責任が重く、これを忽かせにするならば自分のみならず、その子孫にも惡結果を及ぼすと云ふ事は明らかな事ではあるまいか。

近來一般に健康が衰ろへて來て居るので人間の身體を大切にしなければならんと云ふ事が大分論せらるるやうになつて來た。最初は男子の身體に有益な運動は女にも亦有益でなければならぬと云ふ考へであつた、然るに男に取つては最も大切と認められる筋肉の發達、力を強める事の他に、女の體操には極めて必要な、第二の要が認められるやうになつた、即ちそれは「アンムウト」(優雅)と云ふ事で、これは婦人の特性とも云ふべく、力を強めたり、全身を鍛へると云ふ事のために輕々しく犧牲にする事の出來ぬものである。

これは猶ほ後に至つて精しく說明しようと思ふが、力強い運動は優雅及び艷美を排除する要件ではないので、只體操法に於ける美學上の缺點、運動法の無智に由るのである。

優雅に就ての缺點は、一般の體操法例へば近頃大に流行したミユルレル氏の法式が、婦人社會には一向用ゆる人がないと云ふ事も原因である。

獨逸にはこゝ數年來、婦人や子供の爲に體育上に優美の必要を認めた所の種々の體操がある、殊にマルガレッテ氏の體操法の如きは、婦人の體育には身體美に就ての敎育が甚だ大切であると云ふ事を廣く世に知らしめたものである。婦人の爲の方法として、最もよく世に知られたものは、英國のカリゼニックス

であるが私のこの敎課書もカリゼニックスの練習法の大部分は健康及び美と云ふ點に就て不都合であると云ふ例を引いて居る、これは運動及び美の動かすべからざる法則に反して居る事が多いからである。

猶ほこゝに擧ぐべき事は瑞西のダルクローツェ氏の方法で、これは獨逸でも音樂好の人の間には大に持て囃やされた、私も初めて生徒や女生徒がダルクローツェ氏の方法を行ふのを見た時には、この方法の優て居る事に感服した。殆ど彈奏するやうに律調を身れ、體運動に起す事が出來るのである。運動及び身體の練習が、美の法則に從つて行はるゝならば、この成形的演技の美術的價値は著しく高められる事であらう。

目下大に流行して居るメンゼンチーク氏の法は多くの點に於てステッピン氏の法に據つて居るのであつて、主として、婦人の身體を靭やかにすると云ふ事を目的にして居るので、この點に於ては勿論立派なものである。

誤解を防ぐ爲にこゝに注意して置く事は、私のこの書物の內容とメンゼンチーク氏の方法との間には頗る一致して居る所がある、これはドクトルメンゼンチーク夫人は、私の亞米利加の女敎師の方法に由つて、その法を發達させたからの事である。

亞米利加婦人ステッピン氏の方法は、何處までも身體的敎育を美術的原則に由つて遂しやうと努めるので、今日まで獨逸邊りには餘り見うけられなかつた完全なものである。實にこの體操法の土臺となつて居る所の運動の法則は全く美術の法則である。

この方法は、專ら筋肉の努力を表現する代りに、表情と美を以て運動を活かすのである。素より筋肉を發育させる事は、運動美を築き上げる土臺ではあるが、調和した體育の最後の目的ではない。私共の美術的體操の中には、美の法則を破らずに、筋肉及び全身を鍛へる所の力強い運動が十分に含まれて居る。

力、美及び適當は相一致して、體操法の基礎をなし

て居るが、これは古代希臘人などがよく心得へ行ふた所のものである。簡單に云へば私の目的は次のやうなものである。

甲、婦人及び男子の身體の調和的育成及び運動の法則に基づける運動美の教育。

乙、表情の道具としての身體の練習。

（一）、日常生活に於て。

（二）、舞臺に於て。

（三）、音樂的心印の成形的演技の爲め。

先づ私は、私共の方法を男女の小兒並に少女及び婦人の爲に定めた法式で紹介しようと思ふが、然しまた、この方法を男子の爲にも述べようと思ふ。男女の共同體操は有益なものと思ふからである。

私はステッピン孃から個人的に孃の著書を翻譯する許を得て居るが、然し私の美術的體操と云ふ書物は決してそのまゝの翻譯ではない、ステッピン孃の「システム、オフ、フィジカルトレーニング」と云ふ本を土臺にした獨立の著述である。この方法の二三の點は私が稽古して居る間に得た經驗に基き改良し、又ステッピン孃の他の著述から拔粹した所を附錄とした、然し大部分は全く美術的體操法の創始者たる同孃の主意に基いて居るのである。

私はジェ子ビーブ、ステッピンの方法をこの國にも流布せしめ、その本國たる亞米利加に於て受けて居るやうな尊敬と稱讃とを得せしめたいと思ふのである。

猶ほ私は、この方法を會得された女教員方が力を添へられん事を希望するのである、何れもこの美術的體操の眞價を認められた人は、相當にこれを發表するに足るのである。（伯林附近シュラハテンセー、ハーデ、カルマイエル）

育兒

電車と兒童

村尾節三

電車と兒童に關係せる事に就きて、實見せる所を、略述せんとす。

電車外に於ける兒童　電車の線路を中心として、兒童の遊戯する事に就きては、既に遊園地問題と關聯して、識者間に論議せらるゝ所なり、又無意識に幼兒の電車の疾走せる線路内に入り、人をして心膽を寒からしめ、又電車の來る前を、故意に横ぎり、甚しきは線路内に立ちて、電車の接近するを待ちて走り去り、又三輪車に乗り、線路内を走らする者あり、過ちて生命を失ひ、或は負傷せば、一時交通機關は停止せらるゝのみならず、一家の一大不幸を招くべければ、保護者に於て殊に注意すべき事なり、又石を線路上に置き、通過する電車の動揺の響、及び石の破碎せらるゝ音に、興ずる者あり、一時の好奇心に起因すれども、教育上看過すべからざるなり。

電車内に於ける兒童　兒童の電車に乗るや、街上を見んが爲め、腰掛に下駄或は靴を穿きたるまゝ、膝を突きて乗り、隣席者或は釣革を持てる人等の衣類を汚し、又幼兒の隣席の人の袖を引き、襟を摑み、紋を捻り取らんとするは、屢々遭遇し且つ目撃する所なり、其手指の不潔なるが爲め、著衣に汚點を印せらるゝ事あり、又隣席の男子の眼鏡或は婦人の簪櫛等を取らんとするは、兒童に於ては、事物を經驗する正當の行爲なれども、他人に於ては、迷惑に感ずるなり、さるを禁止せざる親を見れば、餘りの無神經に憎くさへ思はる、又鼻を垂らしたる儘にし、或は食物を與へ、これが爲め不潔になりたるを、何等の處置をせざるが爲め、同乗者をして不快の念

を起さしむ者あり、又幼兒を同伴せる人の、席を廣く占有する者あり、混雜せる際にても、往々見る所なり、以上は他人に對する事なれども、兒童の害を招く事項も亦僅少ならず、其は車窓外に顔面或は手腕を出し、車掌或は同乘者の注意すれども、親は形式的に禁止するのみなれば、暫時にして、兒童は其行爲を繰返す事多し、又釣革に幾多の黴菌の附著せる者あるは、人の能く知る所なるに、幼兒に乘車を厭かせざるが爲に、不用意にも病毒に感染し易き幼兒をして、弄せしむる者あり、又幼兒の自身にて、充分に身體を支障する事能はざるを、保護せざるが爲め、發車停車の時はさらなり、線路の曲折せる處にて幼兒の踉蹌きて倒るゝ者あり。

要するに、保護者の注意に依りて、容易に保護せられ得べければ、兒童の爲め、此に留意あらん事を、切に希望する所なり。

小兒咳嗽の手當

醫學士　竹内薫兵

時節柄、小兒が咳嗽をする場合の手當を述べませう。誰でも子供が咳をすれば、早く止めてやりたいと思ふ。殊に母親などは何をば置いても咳を止めて下さいと望む人が少くない。然し咳には種類があつて、早く止めてよい咳と、止めては却て身體に害になる咳との二通りある。で今出て居る咳は止めてよい咳に屬するか、止めて惡るい方の咳であるかを見判けるのは、正に醫者の領分であるから、それは玆では述べませんが要するに咳は、出るべき理由あつて出るのであるから、無闇に止むべきものでない、といふ事は忘れてならぬのである。

それなら、咳の出る時は放て見て居ればよいかといふに、さうではない、それ〳〵手當が要るのである。抑も一概に咳といふても、必ずしも一つ所から出て來るものでない。鼻が惡るくても、咽喉が惡るくて

も、氣管や氣管枝に病氣があつても又勿論肺や肋膜に病氣があつても出るのである。それからそんな所に病氣はなくも、耳の病や胸の淋巴腺の腫れる病などでも皆咳がでる、然るにこれ等の病氣は一々療治が異ふものであるから、こゝから出る咳の治療法も從つて異ふものである。

賣藥にある咳止めの藥を飲したところで、此理をよく飲みこんでそれに應じた手當をしない限りは容易に治るものではない。又大人の咳を止める方法と小兒のとは違ふから、大人の藥の分量を少しにして子供に與へた所で、害はあつても益はない。咳は容易に止まらない事となる。

咳の出る場所さへ判れば、そこさへ治療すれば敢て咳を止めやうとしないでも自然と咳は止まる、然し咳だけが病氣ではない、病氣は必ず咳以外にあるから、無闇に咳止めばかりにあせつてはならぬ。例へば氣管枝と云ふ所へ痰が溜まると、必ず咳が出る。それ故本元の痰を直さなければ、いくら咳止めの藥を飲んだところで決して咳は止まらぬ。

又百日咳と云ふ病氣がある。これは咽喉へ、百日咳菌といふ黴菌がついて、その結果其部分を惡るくして出る咳である。これには何程氣管枝の療治をしたとて咳は止まらぬ。かく簡單な事であるが、世の多くの母親たち或は醫者も考へ違ひをして居る人がないとも限らぬから、くど〳〵と述べた次第である。

どんな咳にも空氣は濕めて居る方がよい。空氣が乾燥し過ぎると咳は治らぬ。これは何處から出る咳でも同じである、だから咳の出る病人の居る部屋は火鉢へ金盥のやうな平たい器へ水を入れたものを掛けて、絶えず湯氣立てゝ置くがよい。費用を惜しまない家庭では吸入器から絶えず蒸氣を出して置くも宜しい、其吸入器は一つと限らない、幾個も備へ付け出し放しにするがよい。(但し梅雨期其他空氣の濕めてる時期には不必要である)。

これと同じ譯で、熱の出た時と同樣に、胸へ濕布をしてもよろしいが、病氣のあり場所によつて必ずし

も胸と限りません。頸へ卷く事もある。熱がない限りは溫い濕布にすべしである。

この外一番大切な事は、病人の部屋は溫かくして置く事である。華氏で六十度内外が丁度よい。然しこの溫度は健康な人には少し苦しい程度であるから、少し位の咳ならば、何も必ずしも六十度と限つた譯ではない、今少し低くてもよいのである、只溫度に甚だしい高下のあるのはわるい。

要するに咳に大切な事は濕りぽくして溫にするのが主である。昔から咳が出たら溫かくせよと云ふのは、今も變らない定說であるが、如何なる場合にもと思ふのは誤りで、又程度もある。よく良家の子女を大切に大切にといふので、咳一つしても厚著させ、部屋を閉め切るといふやうにする結果は、却て抵抗力を減じ、普通の子供よりもずつと弱い子供となつてしまふのは其程度を誤つたものである。

然らば、大人と同樣に冷水浴、冷水摩擦とを平素から行つて居つたら、定めし子供も大人と同樣に皮膚が丈夫になつて風邪を引かずにすむかといふに、之はさうでない。三歲前に子供に冷水浴をさせるのは少くとも我が日本では害がある。これまで私の實驗では皆結果が惡るい。これは我が邦と西洋との家の構造による事と思ふが一つは平素から熱い湯に入る癖が皮膚についてゐる爲に、皮膚が弱くなつてる所へ、急に冷水へ入り、又冷水で摩擦されるために、却て風邪にかゝるのであらうと思はれる。

抑も我が國人の入る湯の溫度は、私が凡そ百人の大人に就て實驗した所では、四十四五度(攝氏)である、子供を入れる時にはずつとぬるくした積りでも大人の加減であるから四十二度以下といふ事は少い。これは子供の皮膚としては高過ぎると、私は思ふ。それ故子供はこの溫度に慣れてるところへ急に冷水へ入れられるので病氣になるのであらうと思はれる。咳の豫防は勿論、種々な病氣の豫防になる爲には、

私は子供に入浴を勸めるのである、然しその溫度をば現今よりずつと低くして、日向水位で平氣で堪

へられるやうな習慣をつくりたい。いきなり冷水に入れたり、又平素は熱い湯に入れて、時たま冷水浴をするのは却て健康に害がある。

名をつければ低溫浴である。而して低溫浴中で子供の身體を平手で充分に摩擦てやるがよい。子供は非常に喜ぶが上に健康にも慥かに有益である。

然し忘れてはならぬ。これは豫防法である。一旦病氣になつた曉には、前申した通り溫かく而して濕つぼくするのがよいのである。

藥品には種々あるが、これは略す、醫者でなければ治療の時期や方法を誤り、取り返しの付かぬやうになる事があるからである。

家庭衛生

塵起たぬ室内掃除法

如何に清潔に住ひましても、人の住むで居る室内には塵埃を生ずるものでありまして、疊の上を一寸眺めた所では全く一塵も無いやうでありますけれども、一日掃除を怠りますと、漆器や一閑張の机などの上には夥しく微塵の積もるのが認められます。室内の空中に斯樣な微塵が浮游して居つて、それが沈澱するのであります。

斯樣な空氣を呼吸してゐては、健康上宜しくないことは申迄もないことで、室内の空氣を屢々新鮮の空氣と入れ換へることは頗る必要のことであります。

日本室は西洋室と異つて障子を立てゝ置くのである

から、自然空氣の流通も良く、餘り窓を開閉して空氣の交換に注意するやうな必要は無いと云ふ人もあります。併しこれは如何でありませうか、日本室でも、殊に昨今の如く締切つて、内で炭を盛に燃し、八疊間に二三人の人が話し込むでゐるやうな處に、外から這入りますと、隨分不快な臭氣に鼻を衝かれます。殊に東京の普通の貸家などは、餘り空氣の流通が良過ぎて、疊を濕して或はその合はせ目の處から牀下の風が吹通しに室内に闖入して居ります。斯樣な室内の空氣が、硝子窓の西洋室内の空氣よりも格段に良いとも思はれません、從つて特別に換氣法に留意する必要が無いとは、ちと考が無理であらうと存ぜられます。

それは兎に角、日本室の内には常に塵埃がある、餘程清潔に注意して、目に止まる程の塵埃は無いにしても、絶えずその室内の空氣中には少なからず微塵が浮游して居ります。これは最初から疊と稱する一種の塵埃溜を敷込むであるからであります。如何に上等の疊でありましても、薄い表の下は悉く乾燥した藁でありますから、微細かい塵埃は無限にその中に溜まります。これは大掃除の際に日光のあたる處で疊を敲く處を御覽になれば、その塵埃溜と云ふのは決して過言で無いことを承認されることゝ信じます。

これも長い間の習慣で止むを得ぬ事と締らめまして、兎に角疊の上に現はれた塵埃だけは毎朝掃出さなければなりません。所謂掃除と云ふことは、特別に無精な家でない限りは大抵毎日一回乃至二回朝夕これを行ひます。誠に結構な習慣ではありますが、從來の掃除の仕方では餘り感服が出來かねます。普通の掃除の仕方を見ますると、ハタキを以て障子や簞笥の上をパタ〳〵叩いて、それが濟むか濟まぬ中に、直ぐハタキを箒に持替へてパッ〳〵と掃出す。掃出した後から、前に舞揚つた塵埃が徐々に沈降て來る。甚しきは、障子を開けもせずに、締切つた室の内で、ハタキを以て塵埃を渦卷かして舞蹈する女

中さんもある。この流儀では掃除の目的が何處に在るか一寸解らなくなります。

斯う云ふ方法には、掃除の目的が逆せられないのみではない、有害である。掃除をする人は勿論その微細い塵埃を非常に澤山吸入するが、直ぐ其後に坐はる人々も上から徐々に降つて來る微塵を被むるのみならず、充分吸入することになります。なか〳〵鼻や咽喉だけには止まりません。確かに氣管、肺の中迄も達します。尤も私共の身體の中には種々の巧妙な仕掛がしてありまして、多少の塵埃などが氣管や肺に吸込まれましても、第一痰と共に外に排出れますし、それで出しかねたものも、大抵は體内の人足とも稱すべき白血球と云ふものゝ活動に依て肺の外に運び出されますけれども、毎日〳〵多量の塵埃が侵入して來ては、多数の白血球の働も間に合はなくなります。實際解剖した所を見ますると、小兒の肺臓は鮮かな美しい紅色をして居りますけれども、大人の肺臓は色が不良くなつて居ります。殊に炭屋さんの肺臓は炭粉が溜つて黑く、石屋さんの肺臓は石粉が溜つてカチ〳〵になつて色が變つて居ります。單にそれのみならず、茲に一つ特に注意しなければなりませぬ事は、この塵埃の中には又種々の黴菌が混じて居ることであります。それも無害のものばかりではない、中には結核菌、肺炎菌、「インフルエンツア」菌と云ふやうな所謂病原菌も往々混じて居りますので、これが誠に危險である。

右の事實を考へますと、室内の掃除と稱して、妄りに塵埃を舞起たしめることは甚だ面白くない事で、危險な仕事と申さなければなりません。實際兵營内に於て、又學校の寄宿舍等に於て、一方は乾燥いたままで掃除をして居る處と、一方は特に注意して一切濡雜巾で塵埃を拭取るやうにして居る處とを比較して見ました所が、濡雜巾で拭取る方の掃除をして居つた方の人々は、乾いたまゝで掃除をしてゐる室の人々よりも、遙かに肺結核に罹る人が少なかつたと云ふ調査成績が擧つて居ります。之を以て觀まして

も普通の座敷の掃除法は衛生上甚だ宜しきを得ないことが明かであります。
併しながら兵舍や學校の寄宿舍等の如く牀板の處ならば、雜巾で塵埃を拭取ることも出來ませうし、又あつさり水を撒いて掃出すと云ふことも出來ませうが、普通の家のやうに疊を敷込むである室内に水を撒くことは勿論出來ませず、然ればと云ふて毎日濡雜巾で疊を拭くことも容易でない、又疊が赤くなると云ふやうな嫌ひもありますので、誠に困つたものであります。
所が何時ぞや、何新聞でしたか何雜誌でありましたか失念致しましたが、室の掃除には茶殼を撒いて掃除すると宜しいと云ふことを見たことがありました。その時は格別意にも止めませんでしたが、先日私の家に病人がありまして、二三日間は顔に風呂敷を掛けたり、ハンケチを掛けたりして牀の周圍を掃出し、或は濡雜巾で疊や諸道具の塵埃を拭取りましたが、其中にふと前のお茶殼の事を思出しまして、前日のお茶殼を取集めて牀の周圍に撒き散らして掃いて見ますとなるほど、殆ど塵埃は起たず、面白いやうに快よく座敷が清潔になりまして、病人も之を眺めて大に感心し、次の日からはハンケチを顔に掛けたり緣起の悪い眞似を致しませんでも、病人がパツチリ眼を開いて見物してゐる處を傍からサツサと掃除することが出來て大に便利を感じました。
それから此は宜しいと云ふので、「リノリウム」の敷いてある室に、このお茶殼掃除を應用して見るやうに女中に命じました所が、前日に入れたお茶殼を悉く取つて置きまして、早速翌朝應用した所が、疊よりは一層際立つて成績が良いと申して非常に喜んで居ります。それでこれは、例の座敷を圓く掃くと云ふ流儀の女中さんには特に適當な方法であらうと考へられます。お茶殼を座敷の隅々迄パラ／＼となるべく隈なく撒き散らしまして、それが一片も殘らぬやうに掃きますならば、確かに箒がまんべんなく行屆いた證據になるわけでありまして、且つお茶殼は

稀に醬油をかけて上等の浸物になるとか、或は乾かして湿いて枕に詰めると腦に良いなどと云ふ人もありますが、それはほんの洒落とも云ふべきもので、實際に行はれる廢物利用と云ふほど迄の事ではありません。然るにこのお茶殼掃除に至りましては必ずしも玉露の出殼でなくとも宜しい、番茶であらうが、並茶であらうが何でも宜しい、それを棄てずに置きまして、前日或は前々日の物を取集めて程好く濕つて居るのを、適當に散布して、靜に掃きますならば微細かい塵埃までがコロ〱と茶殼に卷き取られて快く清潔になります。第一に茶殼そのものが甚だ清潔なもので、如何なる立派な御座敷に撒きましても決して疊や周圍の立附を汚すと云ふやうな虞がありません。衞生上宜しくないとは知りつゝも、餘り便宜な方法が無い爲めに困つて居る座敷の掃除法に、斯樣な簡便な適當な良法を發見し得たと云ふことは、既にこれだけでも日常の家庭衞生の上に侮るべからざる功績であると思ひますが、更に廢物利用の點から申しましても、その材料の清潔にして、應用法の簡單と云ふ點から申しましても、誠に申分の無い面白い名案であると存じますので、自分で實驗致しました結果、讀者諸姉にも試みられんことを御勸め致す次第であります。

化粧漫評

此頃の若い御婦人方のお化粧をなさる處を拜見するとお風呂で先づ、第一に顏と襟を石鹸でゴシ〱とお洗ひになる、其次が糠袋でいゝ加減に長い時間御擦りになる次が洗粉と此時間ざつと一時間餘、それが濟むと次が身體となるお風呂はどうしても二時間餘になる、かやうにして軟かになつた皮膚をいろいろな品でこすつてこすつて、一皮も二皮も御剝ぎになつた處へ何とか化粧水をおつけになり、其上に何やら「クリーム」を丁寧におすり込みになる、その上にねり白粉をこて〱とお塗りになる、恰も石膏細

工に「メリケン」粉を粘ばし付けたやうにお塗りになるこれが頸のみか顔造も、殘すは眼と鼻の穴位、顔一面丁度石膏のお面よろしくと云ふ體裁其上に眉を塗り（墨で）頬を紅で染め、極々彩色かくして出來上つたお顔は、他から美くしく拜見が出來るかと云へば、いや、どうも根よくお塗りになつたものと感心する外ない、これ程に入念に仕上げたお化粧も二三時間も經てば鼻のあたまは油が滲み出る、口の周圍の白粉は剝げかゝる、その美しさを繼續させやうとするには又お化粧をやり直さねばならぬ、其時間の不經濟な事、皮膚に不衞生な事迚もお話しにならぬ。實際平素厚化粧をする婦人に限つて血色が甚だよろしくない、顏の血色ばかりではない、身體全體甚だ色が惡るい、それは素より年齢にも由りませうが、厚化粧をしない小學校の生徒、其他病院などに働いて居る看護婦さんたちの生々として血色のよい事、尤も看護婦さんなどは對照する片方の人が皆色の惡るい病人が多いから、健康な而も血氣盛んな年齢と、それに第一運動がよいから餘計に血色もよく見えるのだらうと云はれた人もありますが、なる程、これも一理ある申分だと存じますが、然し病院内ばかりでなく、外で逢つても血色のよい、手指の清潔な人は看護婦さんに多く見るやうであります。これを見ても、どうも運動不足でお化粧にばかり浮身をやつす御婦人方には一層血色のよくない方の多いのは事實のやうに思はれます。かやうに申せばさて、お化粧が絶體に惡るいといふのではなく、只餘り念入りの濃化粧のために、折角自然のお美しい色艶を白塗りに塗りかくし、爲に皮膚呼吸の妨げをいたし、從つて新陳代謝をも妨げる事になりますから、折角色艶のよい若い御婦人方もお化粧の爲に却て石膏細工の化物よろしくと云ふ體裁になつて仕舞ふのは、他から拜見しても誠に殘念に存じます。最もお化粧も時と場合に依りましては思ひ切つた厚化粧も必要な事があります、例へばお若い御婦人が紋服でも召すやうな時、又は盛裝して外出の場合などは、素顔は

もとより餘りお化粧の薄いのは仇ぽく見えていけませんから、さやうな場合には思切つて厚化粧をなさるのもよろしう御座います、殊に普通の家庭の婦人方は、さう毎日盛裝の必要もありませんから此時には思ひ切り極彩色も却て上品に見えるものでありますが、平生は丁寧にお手水をお使ひになりまして、あとは「クリーム」か水白粉位のあつさりとしたお化粧の方が衞生上は勿論の事、美くしいと云ふ點からも他から拜見して却て此方が御美しくもあり且つお人柄にも見えるやうに思はれます。

感冒頓挫法

窒扶斯又は「インフルエンザ」即ち流行性感冒のやうな黴菌に因る熱病は論外であるが、普通の感冒、所謂「カゼ」は、最初に充分注意さへすれば容易に拔けて仕舞ふものであります。それを馬鹿にして無理を致しますから、なか〲拔けない、段々重くなる、即ち始は多少惡寒を覺え、鼻が詰り或は鼻汁が出る、頭痛がするとか云ふ位の事でありますが、此時に大事をとつて充分頓挫療法を行へば宜しいのに遂ひ無理をして、咽喉が腫れ、氣管、氣管枝と漸次肺の方迄も侵されるやうな事になるのであります。

それで此は何方も能く御承知の事でありますから、くだ〲しく申上る必要もありますまへが、これは感冒を引きかけたなと思ふ時には、斷然外出を止め、温い物を飲み（柚湯、咖啡等何にても宜し、多量に用う）、場合に依ては醫師の處方に依て「サリチール」酸製劑又は「キニーネ」等を服用して、牀に就て暖かにして寢て居る事であります。長い間不快な氣分で、無理に働くよりも、一日靜養して全く治して仕舞ふことは、何れの點より考へても遙に利益であります。只實行することが一番大切であります。

附録

戦時小説　負傷兵慰問

ウインセント、ブラウン
M、K、生譯

群集が大分秩序を亂して押寄せたものだから、アメリアは息をはづませて、『あらあら私は煎餅のやうに押し潰されちまふわ、まあ何て亂暴な人達でせう』と鐵柵に身を寄せて側に立つて居る女に話しかけました、『皆んな何か見えると思つて押し寄せるのですわねえ。何もありはしないのに。負傷兵は一人も庭には出て居なくつて、日がかん〱照つて居るばかりですわ』。

それは丁度大病院の慰問日でした。嚴しい門には馬車が來る、自働車が來る、入場券を持つものは何も持たない群集の大波に揉み返されて困つて居りました。

『私も切符が欲しい、あなたはさう思はなくて』とアメリアはまた話しかけました、

側の女は何とも返事をしません。腕には赤ん坊を抱へて、上の窓からのぞいた兵士の方をじつと見て居りました。

『あの人あなたの御友達』とアメリアはまた問ひました。

『否え』

アメリアは此人は何か悲しい事があつて慰めて貰ひたいのだけれど瘦我慢で見ず知らずの人からそん

な事を仕て貰ひたくないのか、それとも餘り考へ込んでるので人の親切に氣が付かぬのだらうと思ひました。

群集はまた押し寄せました。アメリアは「何て不作法な人だらう」と叫んで赤ん坊をかばうやうにしました。「あの赤十字の旗を見ても愼みさうなものですわねえ、だが私だつて矢張りよくないのですわ、這入れないと知りながら度々此處に來るのですもの、嗚呼若し這入れるものだつたらねえ。此病院には負傷兵が四百人から居るさうです。その中を見たら恐いやうでせう、でもまた何んなにか珍らしくて美くしいでせう。或人がお父さんに話して居るのを聞くとまるで御堂の中へ這入つたやうに氣高い心持がして、始終御祈りしてるやうな心になるけれど口には何も出ないつて　あなたをそんな心持にお成りになつたことがありますの、奥さん」

「えゝ、私何時でもそんな心持がします」

アメリアは少し威壓せられたやうに默つてその女の悲劇的の顔を見ました。

「赤さん甘いものはいかゞでせう」

「餘り小さくてだめです」

アメリアは奇麗な小さい手提袋を開けて見せました。貳拾五錢の「レモンドロップ」の罎詰や卷煙草や毛絲の頸卷が中には入れてありました。

「負傷兵にやらうと思ふて五六度持つて來ましたの、でも一度も近よれませんでしたわ」

「監丁に御渡しになればいゝ」

「監丁つて誰ですの」

「門口のあの「カーキー」服を著てる人」

「えゝ、實際を申しますとねえ」、アメリアは顔を赤めました「私、自分で負傷兵に渡したいのです。決して立派な贈り物と思ふのではありませんわ。いいえ、あの貴夫人達はどんなにかいゝものを持つていらつしやるでせう。唯私はその人の顔を見て、言ひたいのです、あなたの國はあなたを誇りにしますつてね。その人は私と握手しませう」アメリアは

美くしい夢でも見るやうに斯う申しました。
「あなた病院の中で誰か御存知なのでせう」
「いゝえ、若し知つてさへ居れば這入れるのですけれど。あなた誰か御存知ですの」
「いゝえ、私の夫は戰爭に行つて居ます」
アメリアの心には同情と讃美の思ひが湧き起つて兵士の妻をキスしたいと思ひました。背丈けが非常に違はなかつたら恐らくさうしたでせう。その女はすらりと高くて美くしうございました、アメリアは低くて圓肩で貧相でした。
「あなたはあなたの連合が——負傷はすまいかと心配しませんの」
「殺されはすまいかつて仰るのでせう」
「いゝえ」
「私、夜も晝もそれより他に考へることはありません。もう三ケ月の間便りが無いのです」
赤ん坊を抱えてる手の甲を見つけると、アメリアはやさしくそれに觸りました。

「私結婚したことはありません、四十二になるのですけれど——さうは見えないでせう、私こんな一寸法師ですもの——だからあなたの苦しんでいらつしやることが皆んな分かるといふわけには行きませんけれど、斯んな大事な時軍人の妻といふことは何んなにか名譽でせう——」
「いけません、いけません」、女は小聲で言つて、ついとわきに行きました。
「私は思はずあの人を泣かせてしまつた、神樣あの人を憫み給へ、そしてあの人の連合を安全に歸らしめ給へ」とアメリアは一人で祈りました。
もう此處に立つて居まい、何も見えもせぬのに、と彼女は決心しました。も一度病院を見上げましたあゝ這入りたい。併しそれは親戚や其他僅かな人々の特權です。群集は靜かになりました、そして彼女はやがて道に出ました、そこに地面の上に何か文字の書いてある札の落ちてるのを彼女は見つけました。

彼女はそれを拾ひ上げて、それが陸軍病院の入場劵なのを見てびつくりしました。誰かゞ落したのに違ひありません。それらしい人が居るかとアメリアは急いであちこち見廻しました、だが丁度その時自働車が恐ろしい音をたてゝやつて來たからアメリアは向の人道へ飛び退きました。其處に居合せたのはお乳母さんや工場通ひらしい女や娘逹で、その持主らしい人は一人も居ませんでした。

アメリアは興奮して入場劵を見つめて居ました。隱さうと思ふ心はありません。道を通る人が肩越しにのぞけば讀めるやうに持つて居ました

僅かの文字が活版刷であとは書記らしい手で書いたのでした。入場劵は lady Scrues の爲に作つたので四週間水曜日の午後二時三十分から四時三十分まで通用するのでした。今日が第一の水曜だから夫人は出かけに落したのに違ひありません。署名はアメリアには讀めませんでしたが、その下には活字で陸軍務局中佐と書いてありました。文字は皆んな黑インキで書いてありましたが唯「當人に限る」といふ字丈けが赤インキで、下には太い線が二本引いてありました。

アメリアはあとに立ち返つて、其れを門衞に渡さうかと思ひました。

だが彼女は躊躇しました。

其札を繁々と眺めて居ると不思議な心持がしてなりません。あれ程欲しいと思つたものが自分の手に斯うして這入つて來るなんて――若しそれを一度使つたら、たつた一度でいゝ、負傷兵を見舞つたら

斯う思ひながらアメリアは小娘が札をのぞいて見て居るのを發見すると喫驚して眞赤になりました。誰かゞ自分のものを盜まうとでもして居るやうに急いでそれを袋に入れて

『お前さんのかへ、さうぢやないでせう』

『何がですの』

『お前さんは私が何をめつけたかさへ知りもせん癖に、自分の仕事をするがいゝわ』とアメリアは口

の内でつぶやいて、怒つた風をして立ち去りながら、「人の風俗が少しも能くならない、あんな人達は厭い作法の本でも買つて讀むがいゝ」と思ひました、彼女はやがてまた立ち止つて、魔法のやうに病院の門を開くことの出來る御符を眺めました。此時は裏通りを選つて、窓の無い塀に顔を向けて見たのです。そんな事をする態度は却て人の疑を引起すことには氣が附きませんでした、

「當人に限る」

アメリアは考へました、これは何んな事があつても他人が使つては惡いといふのだ、それにしても此貴夫人は何人だらう。外國人かも知れない、名からがもう何と讀んでいゝのか分からない、發音する度毎に違つて來る。どう／＼ぢれ込んでざらにあるスキワースといふ名を當てゝ見ると、これでやつと此札の持主といふのが當り前の人間らしく思はれて來ました。

アメリアは家の方へ歸る道々も何だか夢を見てるやうで——赤十字の旗や其下の大きい煉瓦の建物やが眼前にちらつきはするが併しとりとめて確と考へることいふことも無く——何だか風にでも乘つたやうな心持でした。

アメリアは十五の時から自分の生活費丈けは儲けて今は年老つた兩親まで養つて居るのです。市内の貧しい町の裁縫所に通つてどんなに奮闘して居ることでせう。老夫婦が救貧院に入らずに濟むのも只彼女の御陰です、而して此兩親の愛情だけが彼女が世の中で受けた人間の愛情の全部でした。アメリアにはそれを悲しいとも苦しいとも思ふこゝろは起りませんでした。

入場劵は其日はそのまゝでした、次の日もさうでした、其次の日もそうでした。四日目にも袋に入れたまゝ彼女の寢室の古い鞄に入れて錠が下してありました。

日曜が來ました、此數年來始めてアメリアは朝も晩も御寺に參りませんでした。

『御前は大層疲れて居るやうね。前の水曜に負傷兵を見に行つて餘り運動しすぎたのでせう』と母親は申しました。

兩親が御寺に出かけた後でアメリアは前の戸口を閉切つて二階に上つて恐ろしくも不思議な札を取り出しました。

『當人に限る』

此詞が幾千度脳中を往來したでせう、併も赤インキで――凡て闖入者に對する燃ゆるが如き警告です。『私は之れから逃れなければならぬ。さうだ、明日は本當にさうしやう。袋に穴が燒け拔けなかつたのが不思議な位だわ。私の頭の中を熱くなるやうに引掻きまわすんだもの』と彼女は一人で云ひました。

併し五日も手元に留めて置いて見ると逃れるのが容易いことではありません。『本當はスキワース夫人に返すといゝのだけれど、何處に居る人か分からないんだもの』と思ひました。

彼女は小ぢんまりと片附けた自分の部屋の暗い隅で、鞄にもたれて、この難題の解決が附くまでは起きまいと思つて居ました。『私は御飯など食べなくつても――どうしても負傷兵が見舞ひたい』とも思ひました。

彼女は不意と立つて鏡に自分を映じて見ました。『こんなに苦しむと私は滅茶苦茶になつちまふ』とにつこり笑つて自分をそやすやうにうなづいて見ました。『アメリア・タレット、お前は馬鹿な娘だねえ、貴夫人と見えるなんて思つたら大間違ですよ』と云つて見ました。

其晩臥牀に這入る時にも未だ切符はアメリアの手元にありました。次の月曜は彼女にとつては悲しい月曜で、火曜はまた心のいら／＼する火曜でした。自分は大なる祕密と朧ろげなる恐怖の中に生きて居る心地がしました。恐ろしくて兩親には話せませぬ、それで何か彼等に對して恥づべき事を隱して居る心地が去りません。食卓では父親とばかり物を言つて母親の眼を避けるやうにして居ました。

アメリアが何の程度まで自分で自分を欺いて居たかは分かりません。彼女を了解する爲にはその智識の程度や又感動に對して非常に抵抗力の弱いといふことも勘定に入れなければうそです　心の中には絕えざる爭鬪がありました、どちらが勝つたでせう。

（二）

愈々此次の水曜になりました。彼女は一番立派な衣服を出して著ました、いろんなものを入れた例の袋を提げました。此一週間の苦みに比べれば心が不思議に落著いたと申しませうか――他の考はみんな麻痺したやうになつて、唯病院に行きたいといふ望みばかりが消すことの出來ぬ炎のやうに燃つて居るばかりでした。

彼女が病院の前に來て群集を見た時には、後に兩親にすつかり話した時云つたやうに、地球の中をすつかり拔け通つて向側の「アウストラリア」に出て來たやうな心地がしたさうです。所がそこに巡査が立つて居てそれが彼女の心を恢復させてくれました。そのことについては彼女は嘗て巡査の妻の代りを賴まれて仕事をしたことがあるが、その巡査が溫和な人物であつたことから、此巡査もひどいことはすまいと思つた、『その上澤山人間が居るから私がスキワート夫人がどうか知りはすまい』と思つたのだと說明しました。

門を這入る時にはあぶなくめまひがつきさうでしたが、じつとこらへて札を出すと門衞は眠むたげな不注意な眼をそゝいた丈けですからすつと通りました。

『私は捕まらなかつた、今私はスキワート夫人として負傷兵を見舞ふのだ』

さう思つて成る丈け貴夫人のやうな風をしやうと勉めましたけれど何の役にも立ちませんでした、そして監丁が大股に歩み寄つた時に俄拵の貴婦人風はへたへたに崩れてしまひました。

『何室へ』監丁は軍隊的に簡明に問ひました。

『御免なさい』哀れやスキワート夫人は吶りまし

た。

「何室へ」

「さう、――でもそれを言はねばなりませんの」

「誰かに御面會ならば」

「私きめては居ません――特別にきめてはねえ」

監丁は踵でくるりと廻つたからアメリアは何か惡い事にでもなるのぢや無いかと思ひましたが、彼はもう他の見舞人の所へ飛んで行つて「何室へ」と云つて居ました。

彼女はまた貴夫人らしい威嚴を恢復して、病院なぞへは度々來たやうに見せかけやうとしましたがさう思へば思ふほど只おど／＼するばかりでした。

廊下の角を幾つも幾つも曲りましたが病室には一つも這入りませんでした、その癖扉の開いてる所は一つ一つ覗いて見ました、或所は炊事場のやうでした。或所は貯藏室のやうでした、又或室ではカーキー服の人が澤山遊んで居ましたが其一人が「風がいろんなものを吹き込む」と申しました。アメリアはそれを聞き咎めてきつと自分の風采をあてこすつたのだと思ひました。

じつと壁に身を寄せて流行を逐ふ貴婦人を見て居ると絶望の外ありません。スキソート夫人とはまあ何んな女であらう、きつと自働車を乘りつけて、兵士に贈る立派な品物を法被を著た召使に持たせて來るだらうと思ふとアメリアは又自分の良心に責められました。だがその夫人は今日は來られなくつても今度來る時には贈物を二倍にして持つて來るだらう、自分のやうなものが今日代つて來たからつてこのまま病院に來なくなるやうなことはあるまいと思つて僅に慰めました。

貴婦人達は花のやうに美くしく絶えず病室に這入つたり出たりして居ます、饒舌つてるのもあれば笑つてるのもあります。さういふ人達ばかりでもありません、廊下の或曲り角では長椅子に年老いた女と小娘とが座つて娘は烈しく泣いて居ました、併し老女は深い悲みに沈んでそれを慰める力も無いやうで

した。

『何か御役に立ちますなら』とアメリアは云つて見ました。

『いゝえ、ありがたう』と老女は答へました。

アメリアは何處にも取りつく島が無いやうな心持になつて、いつそあのバネ仕掛けの扉が無ければいい、一寸病室の中を見せてはギーと直ぐに何も見る間の無い内に閉つて仕舞ふんだものと思ひました。扉の上の方には硝子がはめてありますから一二ケ所のぞいて見ると丁度看護婦が此方を見たので何か惡い事でもしたやうについと退きました。

自分は負傷兵と一言も交はさずに此儘出て行かねばならぬだらうか。たつた一人と話しさへしたら充分だのに――それが出來たら一生涯忘れない。特別に言はなければならぬ事があるのでは無いが、たゞその人の側に立つて、何んなに彼の勇敢な行爲を尊敬して居るかを實際に傳へさへすれば滿足である――而して多分その兵士は自分と握手して呉れるだらう。

とう〳〵彼女は勇氣を振ひ起して或病室の扉をそつと開きました。半開きにした戸口から第一に見えたのは湯氣の盛に揚る銅の鍋でした、それは大きい暖爐の上にかゝつて居たのでせう。彼女が不思議さうにそれを見つめて居ると看護婦が出て來て親切な聲で誰か患者に御會ひになりたいのですかと問ひました。

『えゝ どうか――たつた一人』とアメリアは云ひました。

『何て方です』

『知りません』

『何聯隊です』

『知りません。――誰でもいゝのですわ、私たゞ見たいのですから』

『此處の患者は今日大手術があつて、靜にして置く事が必要ですの。今日は唯親戚だけが面會を許されます』

『まあ御氣の毒な、知つて居たら御邪魔するのぢやありませんでした。そしてひどく惡いのですか』

『さうでせう』

『何處に居ますの』

『あすこです』

『あの衝立の後ろ

『えゝ』

アメリアの眼は涙で一杯になりました。病院で患者の周圍に衝立の立つのは總ての希望が絶えた證據だと豫て聞いて居たからです。

『誰か一緒に居ますねえ、あれは御醫者ですか』

『いゝえ牧師です。聖餐式をやつて居らつしやるのです』

アメリアの心は氣高い同情に充ちて、物を云へば啜り泣きになりさうだから、淋しい笑顔を見せてそこを退きました。戸が閉まると其前に跪いて死にゆく兵士の爲に祈りたいやうな心持に成りました。

彼女は二階に上つて行きました。一つの室の前に來かゝると嬉しい事には戸が開いたまゝになつて、ベッドの長い列が見えました。見舞人も澤山は居ませんでした。ふと一番近い寢臺の上から黑い眼がじつと自分の方を見て居るのに氣がつくとはつと思ひました。その男の所には見舞人はありません。此方で微笑むと向でも微笑み返しました。負傷兵とはいひながら其顏の快活で其笑の樂しげなこと。其男は彼女の話しかけるのを待つて居るやうに見えました彼女はする／＼と這入つて其寢臺の側に立ちました。

『御氣の毒ですわ、長く此處に居らつしやいますの』と彼女は喘ぐやうな小さな聲で申しました。

『たつた昨日からです』

『御怪我はひどいのですか』

『いゝえ、なにさうでもありません、手術を待つてるのです』

『あ――あ』とアメリアは唸くやうに申しました。

『何大丈夫です』と其男は快活に言ひました。

彼女は其男を今迄見た内の一番奇麗な若者のやうに思ひました。淡色の髪で、黑眼で、脊丈けが高うございました。枕にしつかり頭を乘せてもベツドの他の端一杯に屆く足を妙に小供らしく重ねて居ました。國家と王との爲に戰場に戰ふ彼は如何に立派に見えたでせう。

「何うして負傷なすつたのです、若し御尋ねしてもよろしければ」

「獨逸の小僧にしてやられたのです。戰線に出てたつた四日目だからつまりませんや。小銃の丸が飛んで來て私は塹壕に落つこちたのですが、まあ溺れ死なゝかつたのが不思議な位で、何しろ脇腹は擊たれてるしおまけに唯つた一人と來てるのですからねえ、手當り次第に垂れ下つた線金を掴んでじつとしてると擊つは／＼六時間も擊ち續けたが一つも當りませんでした。腰つきり水につかつて頭を低くゝして居たから見えなかつたのですね、獨逸の小僧奴等きつと私を殺すつもりだつたのです」

「きつとさうですわ、何て惡い人達でせう」とアメリアは云ひました。

あまり無邪氣な話なので此男はそつと笑つたに違ひありません、寢臺が少しゆれました。

「手術は丸を取り出すのですの」

「えゝ」

「何處に這入つて居ますの」

「足です」

「きつと餘り痛く無くつて、直きにお癒りですわ」

「有難う」と彼は例の快活な聲で答へました。此元氣のいゝ兵隊には何處か滑稽家らしいところがほの見えて居ました。

「お母さんありますの」とアメリアは問ひました。

「えゝ」

「私もありますわ、そしてお父さんは」

「えゝ」

「私もありますわ、あなたには大かた私に無いものがおありでせう――おとゝいがねえ」

「えゝ、いゝ娘つ子が一人」

「おや、いゝ娘つ子つて。一人いらつしやれば結構でせう」

また可笑しさをこらへるやうに身體が揺れました。

「御邪魔しましたわねえ。でも私はどんなに嬉しくて自慢にしませう若しあなたが——」彼女は袋を開きました。「あなた煙草はお好きですか」

「えゝ、隨分」

「レモン・ドロップは」

「結構ですね」

彼女はそれを男の側に並べました。それから、「温かい頸卷はどうですか知ら」とそれを引張り出す時招待券が落ちたのに氣が附きませんでした。兵士は大かたそれも自分に呉れる積りか知らと取り上げて見ました、アメリアはそれを見ると仰天しました。

「いゝえ、いゝえ、私はスキワース夫人ぢやありません。あの、あの——」アメリアは咽喉がつまつて物が云へなくなりました。もう何を話す勇氣もありません。「左様なら。どうぞ——」

また聲がかすれました。男は兄弟のやうな律直さで手を差し出しました。それが彼女の手をしつかりと握つた時アメリアは嬉しさの餘り全身が慄ふやうに思ひました。此千載一遇の大事に當つて吾々が誰でも感じるやうに凡そ世の中に負傷兵の手に握り緊められるよりも強く心を動かすものは無いといふことをしみ／＼と身に占めて知つたのでした。

（完）

抄錄

○調味としての海苔

澤村眞　述（婦女界）

淺草海苔の性分は百分中水分一二・六〇、粗蛋白質一八・一一、粗纖維五・六六、可溶無窒物五六・八三、灰分六・八〇、で蛋白質に富んで居りますから食物として は良いと云はなければなりません。然し炭水化物は「マンナンガラクタン」に類したもので、澱粉と違ひ消化し難い物質なのでありますから、榮養の價値は比較的に少ない事になりますけれども淺草海苔は食料として多量に食すると云ふよりも、其の香味を珍重するのでありますから餘り滋養關係を兎や角と申すべきものではありますまい。

次に青海苔は淺い海に出來て春秋二回採取いたします。その採つたものを乾して置いて火に炙ると一種の香氣が出ますので調味品として誠に結構なものです。煎餅や柹餅などに青海苔を加へると何時迄も香氣が發つて良いものです。青海苔の性分も百分中、水分一三・五三、粗蛋白質一九・三五、粗脂肪一・七三、可溶無窒物四六・一八、灰分一九・二一で、分析の結果は好いが滋養の效は矢張り少なからうと思はれます。



雜報

○廣東の女醫學校

廣東には一千九百年に創立せられたる女醫學校あり、ハッケット女醫學校（Hackett Medical College for Women）と稱し、婦人醫師の管理の下に漸次發展し

今日にては、その建物も約一「エーカー」の地面を占め、二名の米國婦人本校の職員として勤め、四人の米國醫師は臨牀醫學教授の任に當たりつゝありと云ふ。

○女子大學の雛祭

目白の女子大學にては、各寄宿寮とも毎年三月三日に雛祭を行ふ慣例なるが、年々新趣向を凝らし、各寮競ふて思ひ〳〵の雛飾をなし、料理も凡て生徒の獻立にて、賑かに春の一夜を樂しむといふ、誠にゆかしき催しといふべし。

○砂糖の消費高

我國の人は西洋人に比すれば砂糖の消費量少なき方なるも、消費税の設けらるゝ前までは一人の消費量十三斤強なりしに、今日にては僅かに九斤半に減じたりと云ふ。農商務省最近の調査によりて見るときは、一人の砂糖消費量最も多きは丁抹の七十斤にて、英國は六十七斤、米國は六十三斤、獨逸は五十六斤、瑞西は五十五斤半、佛國は二十九斤、墺國は二十八斤、露國は二十二斤、西班牙は十二斤にして、我國は十位に位すといへり。

○怖るべきは精神病者

毎年、否殆ど毎月の如く新聞紙に見ゆる如く、精神病者の爲に意外の危險に遭遇することは眞に寒心に堪へざる所なり。本年に入りて單に東京市内に於ける此種の椿事を見るも、日本橋通に於ても通行中の令孃が狂人の爲に棍棒を以て頭部を毆打されて人事不省に陷りたるを始め、牛込に於て、正月なればとて強ひて家人が精神病院より連れ來れる狂人が其の妻女を殺害したる如き、頻々として此の類の慘事を生ずるは遺憾なり、これ我邦に於ては精神病者の取締規則はあるも、病院の不足、設備の不完全、患者に對する家族の無頓著、一般民衆の無知識等より、往々狂人の市中を徘徊して災害を演ずるに至るものなり、殊に近來は交通の便により地方よりも狂人の出京することあり、或は故意に狂人を連れ來りて市内に放棄するものありと云ふに至つては言語道斷

と謂ふべく、これ群集の中に虎を放つに等しきものなり、この取締は獨り當局者にのみ一任すべきにあらず、一方に於ては是非とも慈善的施設に待たざるべからず、これ何れの文明國の都市にも見らるゝ有用なる保護事業の一なり、吾人は我國の慈善家、特に東京在住の上流の婦人達も此種の事業を起し或はこれを助成せんことを切望して止まざるものなり。

廣告

○私立大日本婦人衛生會新年會

同會は去月二十七日午後一時より一ツ橋通り共立女子職業學校に於て修養婦人倶樂部と聯合の上開催せられたり、役員は階下の控室に一般會員は二階控室に參集したるが、午後一時半總裁東伏見宮妃殿下御臺臨あらせられ、役員一同は玄關迄御迎ひ申上げ、三階の御休憩室に入らせらる、直ちに諸役員及び講師に拜謁を賜ひ、暫時御休憩の後、會長及び副會長の御先導により、宮岡御用掛始め諸役員を從へ、會場たる大講堂に成らせられ、數百の兩會々員恭敬禮の裡に御著座あり、婦人衛生會及修養倶樂部會長として鍋島侯爵夫人の開會の辭並に新年の挨拶あり、次で醫學博士二木謙三氏の發揮皮膚の衛生、食物の衛生等に就き有益なる講話あり、それより餘興に移りて早川貞水の講談勸進帳、永田錦心の琵琶、林糸の常盤津等ありたり、殿下には終りに至る迄御聽取あらせられ、會員起立敬禮の間に御退場、再び御休憩室に於て暫時御休憩の後、午後四時半御機嫌麗はしく御歸邸あらせられたり、會員は菓子並びに鳩山春子女史より寄贈の絹端書數葉づゝを頒かたれ、一部は控室に於て歡談の上、各々散會したるは午後五時なりき。

當日の出席役員並びに寄附左の如し。

鍋島會長　濱尾副會長　鳩山春子
寺尾千代子　大澤常子　濱田捨子
緒方悦子　丹波貞子　小川孝子
近藤逕子　天野多喜子　岡田德子

宮本樂子　片山繼子　中濱芳子
山口貞子　高木縫子　吉岡彌生
吉市幸子　（以上出席順）

寄附

一金拾圓　總裁宮妃殿下より
一金參圓　濱尾副會長
一金五圓　幹事山本多穗子
一絵葉書數百組　幹事鳩山春子
一蜜柑數箱　濱尾男爵夫人

○新潟支會新年會

同支會にては東京本會の翌日、二十八日午前十一時より新潟市婦人協會、婦人教育會と聯合の上、尋常高等小學校内に於て新年會を開催し、百數十名の出席者あり、定刻に至り高田仙子女史の開會挨拶にて「君が代」の合唱に始まり、來賓師範學校長長江氏の祝辭並に講演あり、餘興として會員有志の三曲合奏、武市女史の筑前琵琶、能狂言等あり、最後に「家庭圓滿」と題せる御土産を分配し、唱歌金剛石を合唱し、十二分の歡を盡して午後四時閉會したり。

○入會者

○天野多喜子紹介

牛込區市ケ谷仲ノ町五　特別　小池てる子

○小川孝子紹介

支那漢口日本租界日本公館内　通常　柴田靜江子
牛込區赤城下町　通常　柴田れん子

○藤村晴子紹介

小石川區指ケ谷町五〇　通常　小山すみ子
本郷區駒込林町百四十二　通常　大島いく子

○事務所申込み

茨城縣眞壁郡村田村下川中子本田坪一番地　通常　新井ふさ子

○特別より終身會員に

資格變更

横濱市西平沼　平沼文子

○轉居

朝鮮より横濱市岡野新町三輪田方へ　三神コト子
本郷より小石川區白山御殿町百二十七へ　石津利作
右同　石津とし子
大阪より兵庫縣武庫郡西須磨へ　山邊定子
京橋より芝區白金臺町二ノ九へ　花房千鶴子
支那より支那上海茂海路二十五號へ　長門久壽子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子	同 長谷川仲子
同 岡田德子	同 高木鐐子
同 山本多喜子	同 三浦牧子
同 松平芳子	
評議員 入澤常子	同 羽田三緒子
同 濱田捨子	同 服部繁子
同 仁禮壽賀子	同 西外子
同 土肥多越子	同 緒方悦子
同 岡山とし子	同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子	同 片山色子
同 吉岡彌生子	同 丹波貞子
同 高橋孝子	同 田村きよ子
同 武田貫子	同 鶴原誠子
同 男爵夫人 南部既子	同 中濱芳子
同 山口貞子	同 子爵夫人 松井正子
同 古市幸子	同 小松いさ子
同 近藤憲子	同 伯爵夫人 阿部篤子
同 天野多喜子	同 岸澄子
同 菊池峯子	同 三宅藤子
同 宮本樂子	同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢

三冊（三ケ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢

十二冊（一ケ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字

壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢

○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正六年二月十七日印刷
大正六年二月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地 莊司秋次郎

印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎

印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市本郷區駒込林町二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所

東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店

京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 森作堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店